

2021年 入試改革

共通テスト国語「記述式」 段階別詳細！

小問は3段階、「*」のマイナス評価も！

旺文社 教育情報センター 2019年9月3日

大学入試センターは8月23日、共通テスト国語 記述式の段階別成績について、新たな発表を行った。

国語の記述式は、小問3問の大問が1問出題される。成績は段階表示で、大学には小問の成績と、それを総合判定した大問の成績が提供される。段階別の成績は昨年6月に具体的なイメージが示されていて※、11月の第2回試行調査を経て、今回の発表でいくつかの修正がなされた。入試センターによれば、今後、補足の発表もありうるが、大きな枠組みは今回で確定だという。

※『『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について』(大学入試センター2018年6月)。以下、本記事における「前回の発表」は本資料を指す。
◎本記事では記述式における「書き表し方のきまりに従わなかったマイナス評価」を「表記ミス」と表現。

●今回の発表のポイント

- ・小問は「a」「b」「c」の3段階(内容面の評価)。 ← 前回の発表では4段階。
- ・表記ミスは「*(アスタリスク)」で付記(「a」「a*」「b」「b*」「c」)。 ← 前回の発表ではナシ。
- ・大問は「A」「B」「C」「D」「E」の5段階。 ← 前回の発表ママ。
- ・大問の成績を判定するマトリックスを発表。 ← 前回の発表から簡略化。

以下にそれぞれ見ていこう。

●小問の成績

前回の発表では、小問は4段階だったが、これが「内容面」については3段階、「表記ミス(書き表し方のきまりに従わなかった表記)」をアスタリスクで示すことになった。

<小問の成績>

- a … 正答の条件をすべて満たしているもの。
 - b … (内容面での) 正答の条件を一部しか満たしていないもの。
 - c … 上記以外の回答。
 - * … 字数の上限など、記述のきまりに従っていない場合のマイナス評価。
- ⇒ 小問の成績は「a」「a*」「b」「b*」「c」となる。「c」は最低評価になるので「c*」はない。

●アスタリスクの内容

どんな解答にアスタリスクがつくのか。発表資料には「字数の上限など、解答に当たっての書き表し方に関するきまりに従っていない解答」としか書かれていない。おそらく誤字・脱字、マス目の使い方、句読点など、問題冊子に記載される記述式の「解答上の注意」に関わる内容になろう。

このアスタリスクは、表記ミスが「1 つ以上」の場合に付記される。ミスの数でアスタリスクは変わらないと解釈できる。

入試センターによると誤字・脱字については、場合によってはアスタリスクでは済まず、評価のランクダウン(a→b→c)もありうる模様。これは問題内容にもよるし(問題の中で重要キーワードなのか否かなど)、これから具体的に検討していくということだ。

今回、突然出てきた「アスタリスク」という評価には入試センターの苦勞の跡がうかがえる。記述式導入の本質は思考力であり、「ここではない」。でも、誤字・脱字などは「OK ではない」。その狭間で行きついたのがアスタリスクだったのだろう。これであれば「a」「b」「c」による内容面(思考力)の評価とは別に表記ミスがあったことを示すことができる。また、後述するように、アスタリスクは大問全体の評価に影響しない。受験生に影響があるとすれば、大学側が小問別成績を判定に利用してくる場合だが、今のところそれもない。現状、アスタリスクは記述式の成績として、実質的な影響はあまりないと思われる。

●大問の判定

小問3問を総合して判定する大問の成績。その関係を示したのが下のマトリックスだ。大問が「A」「B」「C」「D」「E」の5段階という点は前回の発表と変わっていないが、マトリックスが簡略化した。なお上述のとおり、新マトリックスを見るとアスタリスクが大問の判定に影響がないことがわかる。

■前回発表のマトリックス(旧マトリックス)■

小問1	a a	C	D	C	B	A
	a b					
	a c					
	b b					
	a d					
小問2	b c	E	D	C	B	C
	b d					
	c c					
	c d					
	d d					
		d	c	b	a	小問3

※入試センター2018年6月「問題作成の方向性」より。

新旧ともに小問1、2の成績(a aなど)は順不同。

■今回発表のマトリックス(新マトリックス)■

小問1	a a	C	D	C	B	A
	a a*					
	a* a*					
	a b					
	a b*					
小問2	a* b	E	D	C	B	C
	a* b*					
	a c					
	a* c					
	b b					
小問3	b b*	c	b*	b	a*	a
	b* b*	小問3				
	b c					
	b* c					
	c c					

※入試センター2019年8月「記述式問題の段階表示について」。

●小問3の重みづけ

小問3(小問の3問目)は解答文字数が最も多く(80~120文字程度)、前回の発表では小問1・2と比べ1.5倍の重みづけをすとされていた。

今回の発表で、数量的な重みづけはしないという結論になったが、それでも小問3に重みづけがなされているのは変わらない。

【例】同じ「b」「c」「c」の組み合わせでも、新マトリクスで見ると(2)の方が評価が高い。

(1)「小問1がb」の場合(ほか2,3がc) ⇒ 大問の判定はE

(2)「小問3がb」の場合(ほか1,2がc) ⇒ 大問の判定はD

⇒ 小問3に重みづけがなされているのがわかる。

●マトリクスの簡略化

新旧マトリクスに仮の数値を当てはめて計算してみると、旧マトリクスは数値の分布どおりにA~Eが区分される。ところが新マトリクスはなかなか数値どおりの区分にならない。数値と判定が逆転するセルが生じてしまう。

確かに数値を当てはめること自体が、段階別評価の考え方になじまないのかもしれない。入試センターによれば新マトリクスの考え方はルーブリックに近いという。つまり段階A~Eはそれぞれどういう状態を表すのか、概念を明確にし、それに該当する小問3問の成績の組み合わせは何かを考えて分けをしていったようだ。このA~Eの概念は示されていないが、作問もこれを前提に行っていくという。



共通テスト国語「記述式」の課題の1つは、自己採点と実際の採点との不一致率の高さだった。今回の変更で採点は簡素化したのか、複雑化したのか。小問の採点は、4段階⇒3段階に簡素化、一方、表記ミスのアスタリスクが登場したことでは複雑化したといえる。

ただし前述のとおり、アスタリスクは大問の判定には影響しない。小問のアスタリスクの自己採点は未知数だが、小問の3段階、大問の判定については、自己採点の不一致率は改善するものと思われる。